

平成22年度 第5回
文化財保護審議会 議事録

開催日時 平成23年2月7日（月）午前2時～4時30分

開催場所 郷土の森博物館 大会議室

出席者 委員 田中 通孝 猿渡 昌盛 小澤 宏
坂詰 秀一 中村 順昭 長沢 利明
馬場 治子 福嶋 司 藤井 恵介

事務局 府中市文化スポーツ部文化振興課文化財係

議 事

1 審議事項

（1）武蔵府中熊野神社古墳の整備事業について

事務局：現在、ガイダンス施設の建築工事を予定通り行なっております。3月までの工期で、現在は内装工事中です。23年度については、予算は協議中ではありますが、ガイダンス施設を含めた周辺整備工事を行なう予定です。

国庫補助事業の4年目であり、今年の秋口をめどにガイダンス施設をオープンする予定です。ガイダンス施設につきましては、地元の古墳保存会を中心に、活用を図っていきたいと思います。

また、北側の民有地にいても、周辺住民の方々のご理解・ご協力をいただきながら用地買収を進めてまいります。現在お住まいの方がいらっしゃいますので、所有者のご意向を十分うかがいながら長期的視野にたって進めてまいりたいと思います。

以下、資料1に基づき説明。

石室の復元案を3案検討いたしました。ガイダンス施設との位置関係は、資料1の図のとおりです。

A案は石室の天井の復元をして、石室全体を復元したものです。天井は発掘調査の際に落ちていた石などから推定しました。石室の外側面の表現が、保留となっているものでした。B案は、天井がない復元案です。C案は、石室の内側だけ復元したものです。

A案は、3案のなかで一番費用と工期がかかり、23年度の工事では難しく、

B案は、石室に天井がないと誤解される可能性があります。C案は、3案のなかで一番工期が短く、B案のような誤解もありますが、外からみると石室かわかりません。

熊野神社古墳の整備は、文化庁の国庫補助対象事業で行なっており、古墳本体の復元、ガイダンス施設の設置、横穴式石室の模型を現地におく、パンフレットなど展示活用を行なう、という4点が補助対象の要件になっています。

古墳の石室の復元につきましては、議会でもご報告し、見直しを行うこととしておりましたが、地元の保存会や子どもたちにとっては、横穴式石室が見られないというのは問題で、作るべきというご意見を伺っておりますので、このような再検討案を作ったものです。

石室の復元については、武蔵府中熊野神社古墳保存活用検討委員会におはかりして、A案で行う予定になっておりましたが、委員会では石室の外観は誰も見たことがないのに、外観まで復元してしまうことに問題があるというご意見がありました。

また復元の場所につきましては、ガイダンス脇以外の場所で検討してまいりましたが、安全管理の問題や建築面積の制約等の問題で、本位置に設置を予定しております。なお、日常入口は鍵をかけ、見学者がいらっしゃった際に展示館のスタッフが鍵をあけて、ご案内することになります。ガイダンス棟の西側の扉から出て、石室に入ります。

委員：この3案の費用は、それぞれどれくらいかかるのですか。

事務局：A案は3,000万、B案は2,200万から2,300万、C案は2,000万弱です。

委員：石室の素材は何ですか。

事務局：コンクリートですが、特殊な素材のもので、遊園地のアトラクションの石のような雰囲気になります。かなりリアルなものになります。

委員：C案ですが、外観の復元に問題があるため、このような案になったのですが、いっそのこと、まわりに土を盛ったらどうでしょうか。

事務局：土を盛ると圧力がかかるので、それなりの構造が必要となり、難しいと思われます。

委員：石室の入口の部分だけでも土があると、臨場感があると思うのですが。

事務局：石室の入口は、河原石積みを再現します。

委員：B案の復元模型は、どこかに展示するのでしょうか。

事務局：現在予定はありませんが、小さいもの、または先ほどご覧いただいた模型のようなものは展示可能だと思います。また展示館には石室の写真などを展示する予定です。

委員：写真よりも、やはり折角ですから模型がよいと思います。

委員：C案について、イメージがつかめませんが、羨道の大きさはどのくらいですか。入る人は四つん這いで入るのでしょうか。

事務局：入口が1m30cmで、大人は少しかがんで入るようになると思います。中は1m80cmあります。奥に行くと3mありますので、石室の入口は狭いが、奥に入ると高いことがわかると思います。

委員：石室の見学スペースは平らにすることなので、石室内部への浸水防止などに配慮してください。

西側のガイダンス施設から石室の建物に入ることですが、石室に入るまでの通路に、古墳の墳丘における盤築の状況をわかるようにしてほしい。

入口に入ると、電灯が点くなど配線を工夫してほしい。

C案は復元といっても、外側の側面と天井がわからない。発掘調査の際には、天井が落ちていたこと、外側が崩れていたことがわかるようにしてほしい。

せっかく作るのですから、教育的な観点も忘れないでほしい。当時の社会情勢がわかるような展示をしてほしい。教材として使えるようにしてほしい。

委員：C案の石室を覆う建物はどんな感じになるのでしょうか。

事務局：大きさは石室の大きさにあわせて作ります。比較的四角い感じの覆いになります。覆い屋自体は、軽量鉄骨にパネルをつけたような簡単なものを検討しております。

委員：もともと石室の復元の目的は、発掘で出てきたものを埋め戻したため見れないので、復元するという目的であったと思います。その目的からみると、発掘で明らかになった部分のみの復元であるB案がよいが難しいようなので、C案で進めるなら、さきほど他の委員からも指摘があったとおり、推定で復元した部分は、断定するのではなく、推定で復元したとわかるようにするのが必須です。

委 員：C案よりB案の費用が高いのはなぜか。

事務局：B案はブロックを積むように、石に見えるように加工したコンクリートを積んでいくので、コンクリートを石にみえるように加工する費用がC案より余分にかかるためです。

委 員：C案は、覆い屋と石室の間には入れず、隙間も見えないということですね。

事務局：そのとおりです。

委 員：石室の入口がハの字状に開いているのが重要ですが、それは表現するのですか。

事務局：スペースの問題がありますが、出来る限り再現します。

委 員：床面はどうなっていますか。

事務局：玉石のような砂利敷きです。

委 員：床面を全面復元するのか。

事務局：実際は床面全面が砂利敷きであったと思われませんが、発掘した際に剥離していたところもあります。その表現をどうするか検討中です。

委 員：覆い屋ですが、箱形になるので、ちゃちにならないように気をつけてください。鉄板を巻きつけただけなどはやめてほしい。

委 員：石室内部はどうなるのですか。

事務局：まだ検討中です。

委 員：鞘尻金具を置いたらよいのではないのでしょうか。

委 員：石室の中の明かりはどうなりますか。

事務局：センサーライトをつける予定です。石室の雰囲気を出すために、明るすぎないようにしますが、安全なレベルにします。

委 員：石室の雰囲気を表現するために、電球の明るさと色に注意してください。

事務局：石室には、展示館のスタッフが案内して説明できるように致したいと考えております。電球の明るさは、もちろん安全な明るさにしますが、スタッフが案内するので安全面の問題はないと思います。

委員：湿気対策はどうですか。

事務局：換気扇など検討中です。

委員：換気扇は目立つとおかしい。だが、入口を閉めると湿気がこもり、カビが生えると思います。換気を考えたほうがよい。

委員：こういった施設もバリアフリーは必要でしょうか。

事務局：福祉の担当課と相談した結果、このような施設ですから、事実のまま復元することになりました。ただ、正面からは車椅子の方も明かりが点くので石室の中をみることが出来ます。

委員：石室の向きは。

事務局：図のガイダンス施設の近くには書いてあるラインですが、古墳の大きさを体感できるようにラインを引きます。復元した石室の向きは、本物と同じ向きにつくります。

会長：それでは、古墳の復元についてはC案ということによろしいでしょうか。また、復元の場所ですが、見直しした結果で、安全管理上などの問題から、図の場所によろしいでしょうか。

委員：異議なし。

2 報告事項

(1) 武蔵国府跡御殿地地区（仮称）の井戸調査等について

資料2にもとづき、井戸調査及び国史跡武蔵国府跡の追加指定について報告。

委員：井戸を使っていた時の、水のあった深さはどれくらいですか。

事務局：3 mくらいの深さだと思います。通常8 mくらいが井戸底だが、今回は9 mありました。

委員：江戸時代の火事より前に井戸を埋めたという理解でよいか。

事務局：そうです。調査の結果、8 mくらいで井戸さらいをして、河原石まじりの土でいっきに埋め立てたようで、火事の焼土がその上にあることがわかりました。

委員：井戸は水が出ないから埋めたのでしょうか。

事務局：それはわかりません。

委員：今回調査をしていて、水がしみ出てくることはありませんでしたか。

事務局：ありませんでした。

委員：井戸の水脈は、隣に駅ができたので途切れていますよね。

事務局：そうだと思います。

委員：御殿の中心はどこですか。

委員：イトーヨーカドーのところではないかと思います。

委員：イトーヨーカドーを建てる時は調査をしなかったのですか。

事務局：イトーヨーカドーは昭和40年頃の建物で、市内で発掘調査が始まったのが50年頃のため、未調査です。

(2) 郷土誌フェアの実施結果について

資料3にもとづき報告。府中市は昨年度と同様、売上が第2位で、郷土の森博物館のブックレットや文化財めぐりの地図が好評であったことを報告。

委員：八王子市が売上第1位ですが、売れている本は何ですか。

事務局：郷土資料館の特別展の図録です。

3 その他

(1) 次回の開催日について

第1希望 平成23年3月28日(月) 午後2時から

第2希望 平成23年3月29日(火) 午前10時から

(2) 「特別展 発掘！府中の遺跡 古代国司館と家康御殿」視察